

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170200291
法人名	有限会社 ハート
事業所名	グループホーム 安庵
所在地	佐賀県唐津市佐志1156番地26 (電話) 0955-79-7017

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番地2		
訪問調査日	平成 19年8月24日	評価確定日	平成 19年12月3日

## 【情報提供票より】(平成19年7月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	12人, 非常勤 5人, 常勤換算 15人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		1,000円	

### (4) 利用者の概要(6月27日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩本内科、松浦歯科、唐津第一病院歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

各居室、居間から唐津湾を一望できる場所に位置し、周囲は自然に囲まれた静かな環境である。また、入居者と花や家庭菜園を育てられており、理念にある自然や季節を感じることができるようにされている。管理者が看護師であるため、医療機関との連携も密に行われており、医療依存度が高い入居者も安心して暮らされている。家族を始め外部評価、運営推進会議、介護相談員の意見を職員で話し合いがなされ、グループホームの運営に積極的に活かされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を受けた後は、その評価を元に、職員全員で話し合いながら、改善にむけて取り組まれていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価について職員全員で勉強を行い、評価を元に職員全員で話し合いながら、改善にむけて取り組まれていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	介護サービスの内容や行事報告が行われ、そこでの意見を今後のサービスに活かされていた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの様子は、介護計画の説明時や月1回担当者が個別の写真付のお手紙で報告されており、ホーム内に意見箱を設置したり、契約書に苦情相談の項目を作成されたり、家族が意見を伝えやすい取り組みがなされていた。また、意見があった場合は、すぐに会議の場を設けられ、対応されていた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議をきっかけに、地域の文化祭に入居者の作品を出展されたり、近隣の福祉施設の運動会や花火大会に参加されている。またホーム向かいの店の方と日常的に挨拶や話をされており、近所の方とも畑の作物の差し入れがあったりと、地域との交流も図られていた。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に職員全員で決めた理念があり、採用時のオリエンテーションで説明が行われていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	迷った時は立ち戻れるよう、施設内にスタッフ全員で作成された理念が、目につくところに掲示されていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議をきっかけに、地域の文化祭に入居者の作品を出展されたり、福祉施設の運動会や花火大会に参加されていた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価について、職員全員で勉強されていた。また結果を踏まえ議題にあげ、取り組まれていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護サービスの内容や行事報告が行われ、そこでの意見を今後のサービスに活かされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度の介護相談員の訪問を積極的に受け入れられ、意見を職員会議にあげサービスの向上に取り組まれていた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	介護計画説明時、毎月1回個別に担当者が写真付のお手紙を出されていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置し、直接意見がきけるような雰囲気づくりに取り組まれ、意見があった場合は、すぐに会議の場を設けられ対応されていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット全体で出勤を考え、また、異動になった場合も顔をだすようにされていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回事業所内研修が行われていた。事業所外での研修に参加された場合は、伝達研修が行われていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他地域のグループホームの研修に全員が行かれ、そこで学ばれたことを検討し、ケアに活かされていた。まだ地域のグループホームとのネットワークは作られていなかった。	○	市内の他のグループホームとのネットワークの構築が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同じ職員がかかわったり、家庭生活の延長となるよう、生活リズムに気をつけられたり、馴染みの物を利用できるようにされていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が自身で出来ることはやっていただき、入居者から職員が学んだり、出来ることは一緒に行なわれていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認し、また入居者からの意向が確認できない場合は、家族や関係者に確認し、本人本位に検討されていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、管理者、計画作成担当者、担当職員よりそれぞれ意見を聞き、介護計画が作成されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度、本人、家族、管理者、計画作成担当者、担当職員に意見を聞き、見直しが行われていた。また、状態が変化した際には、随時見直しが行われていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、グループホーム、在宅所、デイサービス利用の支援が行われていた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医で継続できるよう支援が行われていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、かかりつけ医、職員全員で、個々に応じた終末期のあり方について、話し合いが行われていたが、マニュアル等の整備はなされていなかった。	○	現在マニュアル作成等取り組みを始められたばかりのため、これからの取り組みに期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から尊厳を持って接するように、理念や教訓を目に付く場所へ掲示が行なわれていた。また、採用時に個人情報について説明が行なわれており、契約書が交わされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内での全体の日課はあるが、その中で個別で対応が行なわれていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に作った野菜を食材として使われ、一緒に準備が行なわれていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者と職員との話し合いで入浴日が決まっているが、希望がある場合は、柔軟に対応されていた。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に生活歴を聴取して、希望に添った楽しみ、役割の支援が行なわれていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に添って、散歩やドライブへの外出が自由に行なわれていた。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が見守りを行なうと同時に、玄関にチャイムをつけ鍵をかけないケアに取り組まれていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者と年に2回消防の避難訓練が行なわれており、全職員が夜間を含め、すべて対応ができるよう取組まれていた。また、日頃から、地域の方への協力依頼をされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のもと、個人にあった量や形態、水分量、習慣に応じた支援が行なわれていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間にはソファや観葉植物があり、個人ですごせるよう椅子も設置されており、くつろげるよう工夫されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや仏壇など使い慣れた物が持ち込まれ、また個室で動物を飼われたり、本人が心地よく過ごせるよう工夫されていた。		